

# コ・ター窯跡の調査

## 調査の経緯

ここに報告するミャンマー・モン州・コ・ター窯跡の発掘調査は、京都大学柴山守教授を研究代表者とするJSPS科研費JP26300024「古代・中世東西回廊—ミャンマー・タイ国境における文化交流・交易網の歴史的動態」の分担研究としておこなった。

## 窯跡の概要

窯跡はミャンマー南東部、モン州の州都、モウラミヤインの南東約15kmに位置する。窯跡は直径500mほどの丘陵上に立地し、この丘陵の東1.2kmにはマルタバンに流れ込むアタラン川があり、生産された陶磁器の移送経路が推察される。

窯跡は民家の敷地に所在し、南北2軒の民家が土地所有者である。現状は民家の境付近が最高地点となり、南北になだらかに傾斜する。しかし民家に沿った部分は大きく破壊されており、民家の建設に際しての土取り場となっていたと推定される。ただ西側のなだらかな曲線を描くマウンドの裾は、当初の形状をとどめていると考えられる。

現状の観察から、最高点の南北どちらかに窯体の存在が推定されたため、まず北の民家の敷地に東西にAトレーニチを設定した。この北側の破壊された裾部からは大量の遺物が発見されたため、灰原もしくは物原と推定され、この部分にBトレーニチを設定した。Aトレーニチにおいて、当初南北方向の焼土壁のような遺構が見られたので、その続きを見るためにAトレーニチ北側に同規模のCトレーニチを設定した。

## 遺構

今回の調査では窯体は検出されなかったが、その後の地表観察から、焚口部の一部かと思われるレンガ構造物が南側民家の庭先に確認され、窯体は南側の大きく破壊された部分に存在したと推定されるに至った。

## 遺物

出土遺物は青磁の碗・盤と窯道具である。

**碗** 碗は加飾法の違いにより、3種に分けることができる。まず体部外面に装飾を持たないものと持つものとに分けることができる。

体部外面に装飾を持たない個体（図10-4）は碗形と器高が低く口縁部が大きく開く浅鉢形の2種がある。このうち碗形は外面に装飾を有する個体と異なり、口縁端部を外反させない。一部の個体で体部外面に数条の縦線を入れるが、浅くはっきりしない場合が多く、無文の分類に入れた。体部外面に装飾を入れる個体については、同時期の中国青磁の碗に見られる蓮弁の装飾を模した可能性を考えたい。装飾の丁寧なA類（図10-1～3）では、ヘラ状の工具で縦に2本の凹部を入れ、間を突線状に残し、蓮弁文の鎬を表現する。簡略化されたB類（図10-4）では、数条の沈線を縦に入れるとどまる。口径によって大中小の3種に分けることができる。

**盤** 生産量は少ないが盤も生産されている。口径が25cm前後の小形品（図10-9）と30cm前後の大型品（図10-10、11）がある。いずれも高台部まで厚く施釉され貫入が多い。大型品には内面に線刻を有する個体がある。

**窯道具** 窯道具には3種類が確認された。碗用には敷柱と三叉トチンの2種類がある。円柱形敷柱（図10-7、8）は長さ26cm前後と11cm前後の2種類に分けられる。いずれも窯内の床面を少し掘りくぼめて、下部1～2cmを埋め込み安定させていると考えられる。上端には粘土塊を2個から3個程度置き、碗底部を受ける。木の棒のような細長い器物に粘土紐を巻き付けて成形し、表面は

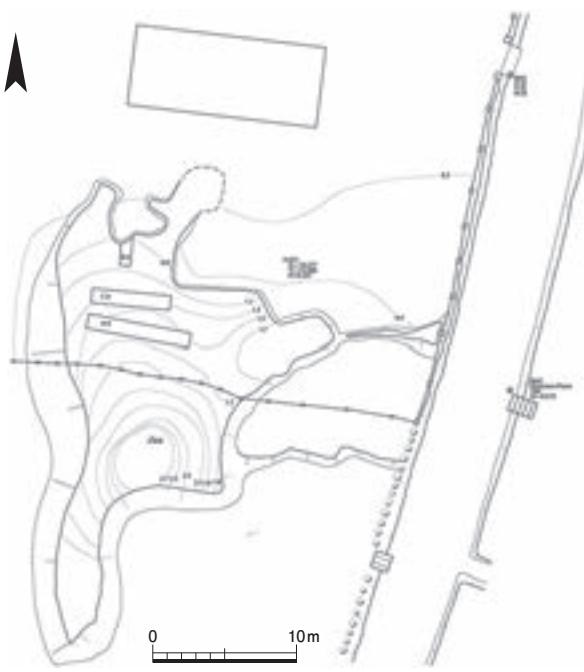


図9 コ・ター窯跡地形図

粗くなまで調整する。表面が暗褐色に焼けているものが多く、火表と火裏がはっきりとわかる焼けを示す個体も多い。今回の発掘調査ではこの種の敷柱が大量に出土した。円筒形敷柱（図10-6）は盤用と思われ、数点が出土した。完形に復元できる2個体は、下半部を碗用敷柱と同じように作るが、上半部を大きく広げて盤高台部を受ける作りとなっている。上半部は比較的丁寧になで調整で仕上げを行っている。碗用敷柱と同様、暗褐色によく焼けている。三叉トチンは円形のリングの下に円錐形の支えを有するもので、単体での出土とともに、碗の高台外面に釉着した個体も確認され、碗に使用されたことがあきらかである。ただし敷柱などと比べ、数が圧倒的に少ない。

### まとめ

今回の調査はミャンマー南東部モン州でおこなった。この地は古くから、マルタバンと呼ばれる黒褐釉壺の積み出し港として有名であった。また白釉緑彩陶器の出土で有名なターク＝メソットのあるカイン州に隣接し、陶磁

器の生産に関して注目されてきた地である。今回の調査では黒褐釉陶器や白濁釉陶器の生産は確認できなかったが、青磁の優品を生産した窯跡があきらかになった意義は大きい。さらにその青磁の特徴がタイ・シーサッチャナライの青磁製品に類似する点が注目される。今後、周辺地区を含めた窯跡調査を進めることによって、東南アジア大陸部における中世窯業生産の広域的な技術関係をあきらかにする必要があるだろう。（佐藤由似・杉山 洋）

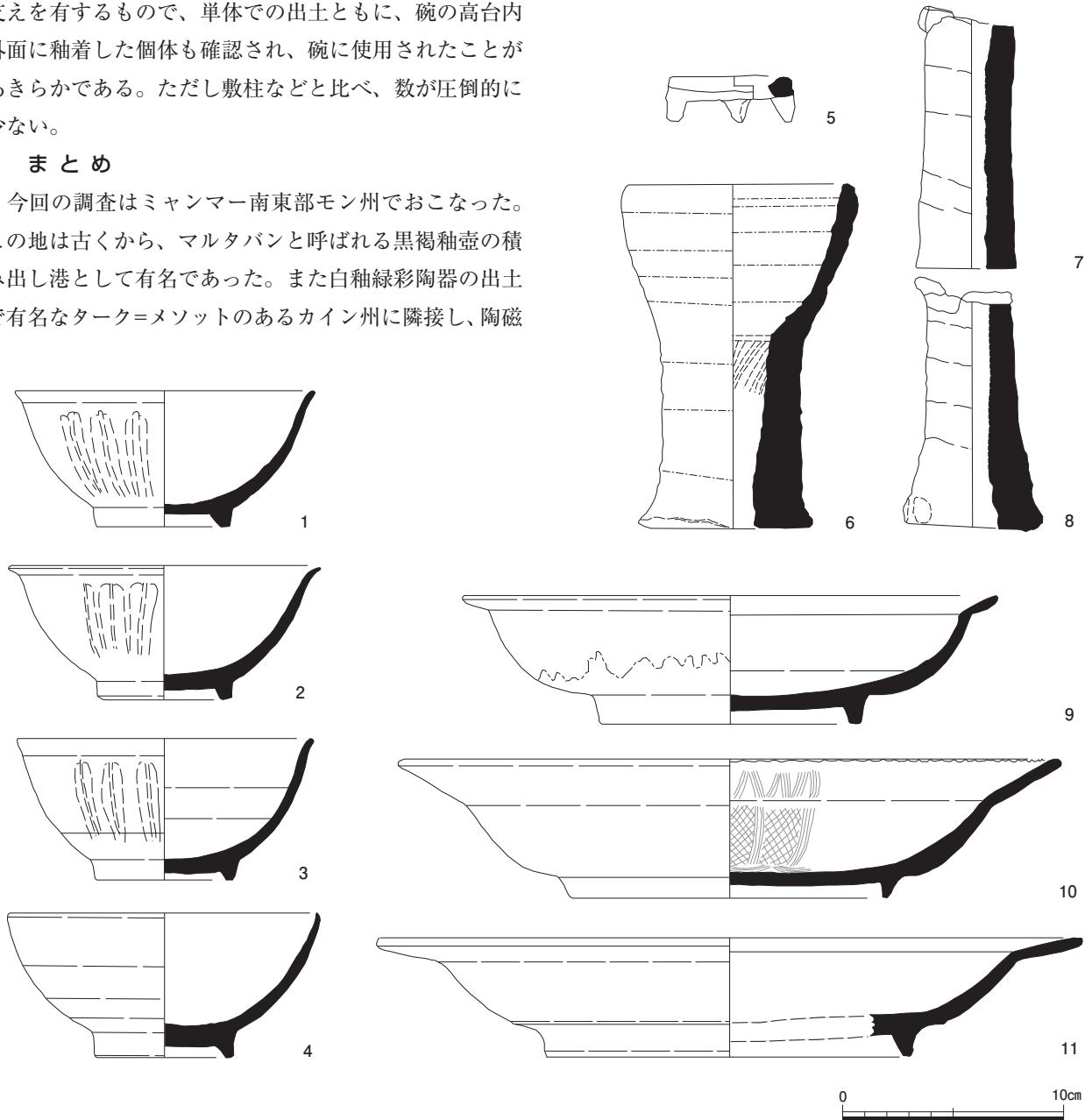


図10 コ・ター窯跡出土青磁 1:3